

## 助成事業でこんな成果があがっています ～「貧困・格差対策」に関する事業～

### フードバンクによる生活困窮者のセーフティネット構築（NPO）

#### 【助成事業の概要】

生活保護などの公的支援を受けられない制度の狭間の生活困窮者などへの支援を行うため、地域の企業や商店、農家あるいは一般家庭より、品質に問題はないが包装不備や賞味期限が近付いた食品の無償提供を受け、支援が必要な方々へその食品を供給する「フードバンク」を行っています。

#### 【助成金の使途】

支援を必要とする方々への支援物資の配送経費や支援物資の回収ための中古車両購入に利用。

#### 【助成事業の成果】

行政において今まで支援が届かなかった方々に対して支援が届いたという実績により、行政の信頼を得て、市内にとどまらず県内全域に活動範囲が広がっています。支援の中で見えた課題から、フードバンクを通じて繋がった生活困窮者の方々の居場所づくりを開始し、就労につなげていくなど、活動の幅も着実に広がっています。



### 生活困窮世帯の子どもたちへの学習支援 ～貧困の連鎖を断ち切る～（NPO）

#### 【助成事業の概要】

ひとり親家庭などの生活困窮世帯であるために、十分な学習環境を持ってない子どもたちを対象に、大学生などのボランティアを活用した無償の学習支援を行うとともに、保護者に対して子どもの進学に関する助言・相談も実施しています。

また、成長過程にある子どもたちが十分な栄養を摂れるよう、フードバンクを実施する団体と連携し、食品の提供を併せて実施しています。

#### 【助成金の使途】

学習支援で利用するテキストや、学生ボランティアが学習会場まで移動する際の交通費などに利用。

#### 【助成事業の成果】

学生ボランティアを活用したこの取り組みは、子どもたちの学習習慣の定着や進学意欲の向上、他者とのコミュニケーションの場の提供につながっています。また、生活困窮世帯の子どもは将来生活困窮に陥る可能性が高く、「貧困の連鎖」を予防する効果的な活動として全国に広がっています。



## 生活困窮者への緊急支援（炊き出し、相談、シェルター）から伴走型支援へ（NPO）

### 【助成事業の概要】

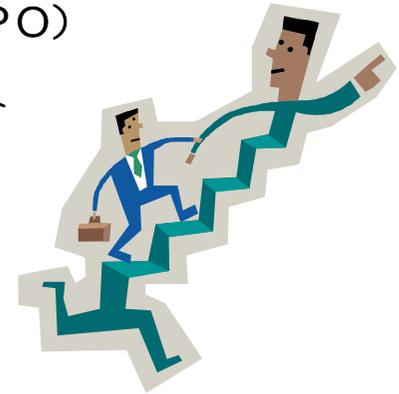
失業、多重債務、家庭問題等の様々な問題を抱えホームレス状態にある方々、ネットカフェ難民、路上生活に陥りそうな生活困窮の方々への支援を行うため、生活・健康相談、食事支援、緊急宿泊所の提供などを行いながら、自立に向けた伴走型支援を行っています。具体的には、要支援者のステージに応じた公的支援の手続き補助や不動産業者との連携による住居の確保、就労体験、ハローワークへの同伴、そして雇用創出も行っています。

### 【助成金の使途】

巡回、炊き出し、緊急宿泊所の設置・運営、個別相談、集いの場の設置などに利用。

### 【助成事業の成果】

これまで行われていた活動の認知度が上がることによって、伴走型支援を行ううえで必要な地域の他の社会資源との連携が進んでおり、地域における助け合いが着実に広がっています。



## 生活困窮に陥るリスクの高い若者を社会へつなぐ（NPO）

### 【助成事業の概要】

発達障害であると気付かないまま大人になって苦しんだり、「ひきこもっている」という自覚なしに家で過ごすなどの生活困窮に陥るリスクの高い若者が社会参加の足がかりをつくるため、若者に寄り添った中間的就労のモデル事業の構築とサポート側の体制づくりを行いました。

具体的には日常的に支援対象の若者と関わる相談窓口の方に、携行可能なサポートマニュアルを作成したり、高齢化が進み作業の人手不足に悩む農家の委託栽培をはじめ、里山整備や施設清掃などモデル的に請負い、個人の特徴に応じた就労訓練の場を提供しています。

### 【助成金の使途】

サポート体制講座のカリキュラムの作成経費や農作業用品の購入などに利用。

### 【助成事業の成果】

支援対象の若者の中には、従来の職業訓練や居場所での体験程度では就労につなげることは難しく、社会参加の場が失われると貧困に陥ってしまう場合がありますが、この取り組みは社会的に孤立してしまうことを未然に防ぎ、助成翌年度も継続できるシステムが作られたことで、新たな就労の場として若者の就労支援につなげています。

